

障害者施設でメイクセラピー 芦屋のボランティア団体

ツイート 0

おすすめ 0

印刷



好きな色を尋ねながらメイクやネイルを施す酒造志保さん＝三田市大原、三田わくわく村

兵庫県芦屋市のボランティア団体「shin.shinフレンド倶楽部」が、三田市大原の障害者福祉施設「三田わくわく村」でメイクセラピー（化粧療法）に取り組んでいる。化粧をして美しくなることで元気や自信を持ってもらおうと、同施設では2年半ほど前から始めた。代表の酒造志保さん（51）は「メイクが内面に働きかける力を知ってほしい」と語る。

「口紅は何色にしますか？」。酒造さんが色とりどりのパレットを施設を利用する女性に見せる。女性が指さしたのは華やかな赤。

「流行色。きっと似合うはず」と化粧筆を運ぶ。鏡に映った姿に、女性の表情に明るい笑みが広がった。「対面で座り、会話を楽しむことを心掛けている」と酒造さん。